



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

…会員随時募集中！…

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内 TEL/FAX：0467-47-1164 木曜を除く10時～16時  
Web URL：<http://www1.ocn.ne.jp/~ya-yato/> E メールアドレス：[ya-yato@arrow.ocn.ne.jp](mailto:ya-yato@arrow.ocn.ne.jp)



**農作業・保全作業は！  
毎週、まったなしです！**



6 / 10 小麦の収穫

**もくじ**

☆各班のお知らせ→  
2・3p ☆谷戸の自然だより

→4p ☆谷戸往来→5p ☆谷戸の  
体験学習→6・7p ☆7～9月日程

春から新しい顔ぶれが増え、大勢の笑い声が谷戸に響いて、田んぼも畑も活気付いています。暑い盛りも今後ますます心がけなければならない省電力対策。谷戸の作業で汗を流し、その後もなるべく谷戸で過ごす時間を長くすれば、バッチリですね。谷戸の梅ジュースがご褒美ですよ。

# 各班からのお知らせ



## 田んぼ班

★7/1(日)、8(日)、15(日)、22(日)、29(日) 田の草取り

谷戸の田んぼは田植えが終わり、今年度の作付け品種「マンゲツモチ」「さとじまん」が田んぼに根を張り始めています。米作りでは4、5、6月が春の農繁期で、中心的作業の大半を終えたこととなります。田んぼを耕す「田うない」「田植え」は特に多くの参加者で賑わい、昔ながらの手作業を楽しみながら行うことができました。



5/20 畔のくろつけ

田植えまでによい苗を育てるための「育苗」、田んぼの畔を直して水漏れのしないしっかりした畔を作る「くろつけ」は収穫を左右する重要な作業です。今年の「育苗」は小段谷戸の苗床に行ないました。水やりの心配なく発芽率も高かったのですが、その分密集して細い苗になってしまいました。「くろつけ」は、冬場の凍結やモグラ、ザリガニなどの影響で畔が弱くなっているの、丁寧に補修を進めたいと思います。これから8月初旬までは、ひたすら田の草取りです。稲の株間に身をかがめて、1株1株の根元をかき混ぜながら草を取ると稲の育ち具合がよくわかり、生きものを見つける楽しみもあります。大勢の参加者でシェアすれば楽しさが残りますよ。作業予定日以外でも「今日はやるぞ！」という方は事務局へ一声おかけください。

### ～参加者の声～

田んぼでは太腿裏側が疲労することを知ったのは1年前のことでした。それまでは数ヶ月に1回畑に参加していたのですが、田んぼやるぞ！と決意した結果です。でも、結局数週間に1回の参加（それも農繁期のみ）に留まっているので、やったことの無い作業も多く、「田んぼやった」となるまでには、あと何年？という感じです。まあ、たまに見た方が、変化に感動することも多い筈(?)ですし……。去年はぼおとしている間に稲が大きくなり茶色くなりましたが、今年はどう感じるのでしょうか。太腿裏側の疲労はまた経験しました。農繁期はすでに始まりました。田んぼ班のコアな方々とお手伝いの方々と一緒に汗をかくぞ！……。できる範囲で。(望月英二)



## 畑班

★7/1(日)小豆・いんげんの種蒔き ★8(日)ごまの種蒔き・さといもの土寄せ  
★15(日)小麦の脱穀 ★22(日)そば刈り ★29(日)落花生の草取り・草刈り・耕し



昨年の小麦の脱穀

6月の畑は一年でも一番忙しい時期で、次から次へと作業に追われますが、春からの新メンバーも加わり、無事に小麦の収穫、さつまいもの苗の植付け、たのくろ豆の種蒔き、じゃがいもの収穫をこなすことができ、ホッと一息ついているところです。

7月に入ると今度はあずき、さやいんげん、ごまの種蒔きが待っています。先日まで真っ白い清楚な花をつけていたそばも、収穫期を迎えます。そして梅雨があける頃には小麦の脱

穀をします。昔ながらの足踏み脱穀機や唐箕を使いますが、そういう道具の手入れも得意なメンバーが補修しており、みんなの協力によって畑班がまわっています。そんな輪(和)の中に入れて一緒に活動しませんか？



昨年の小麦の選別



## 雑木林管理班 ★7/1(日)田周辺の草刈り

5/13 畑周辺の草刈り

★8(日)土手の草刈り★22(日)雑木林の下草刈り

夏本番がやってきます。雑木林管理班では、土手や、林の草刈りに汗を流しています。土手の崩落を防ぐためにササ・チガヤ・ジャノヒゲを残したり、珍しい野草に気を配りつつの作業です。冬の「父と子の里山体験」で植樹したコナラ・クヌギも育っています。皆様の参加をお待ちしています。



## 農芸班 ★7/27(金)梅干し作り(本漬け)

6月8日(金)に梅干し作り1回目(塩漬け)を行ないました(写真)。高所の梅の実竹竿で枝を叩いて落としました。参加者の皆さんと収穫から協力し合って作業が進みました。下漬けを終えた梅からは梅酢が



上がってきて爽やかな香りに包まれています。次回は赤ジソを収穫し本漬けです。初夏の梅仕事で季節の移り変わりの楽しさを感じてみませんか?ご参加をお待ちしております。



## 自然遊び班



5/20 さつまいもの苗植え

5月20日(日)のこども里山一日体験「さつまいもの苗植え」は、たくさんの親子で賑わいました。苗床で育ったさつまいもの苗を切り、子どもたちが畑に丁寧に植え付けました。苗はしっかり根付き、育ってきています。様子を見に、また谷戸に来てくださいね!



昨年のお泊り里山体験 草木染め

### ☆夏休み特別イベント☆

子どもお泊り里山体験 (対象4~6年生)

7月29日(日)12時~30日(月)10時

農作業やかまどで炊飯など、昔ながらの里山体験

公園協会にて申込み受付を行います。7/21まで

詳細は「広報かまくら」7月1日号を

ご覧ください。



竹の食器作り

# 谷戸の自然だより

～ホトケドジョウ～

普通のドジョウより頭が大きく見えるので、ナマズに似ています。地元（腰越地区）の人はオンバコと呼んでドジョウと区別していたようです。大きさは最大でも7センチ程度でドジョウより小型です。他の魚が棲まないような川の源流部の小さな水路に棲んでおり、山崎の谷戸のような里山の環境を好みます。ゲンジボタル、カワトンボ、そしてホトケドジョウ、鎌倉の谷戸の水路を代表する生きものと言えます。山崎の谷戸ではホトケドジョウがたくさん見られますが、神奈川県では“絶滅危惧種”に指定されており、谷戸のような環境が貴重になっていることがわかります。田んぼの生きもの調査を始めて驚いたことは、ドジョウだけでなく水路にいるはずのホトケドジョウの稚魚を多数見つけたことでした。田植えの頃、田んぼでも水路に近い“山田”と呼ばれる区画で、メダカのようなホトケドジョウの稚魚が泳いでいるのを見ることがあります。この頃の田んぼはミジンコなど微生物の宝庫なので、ホトケドジョウの稚魚はサケが海で育つように、田んぼと水路を往復して暮らしているのでしょう。梅雨明けが近づくと田んぼから姿を消してしまうのが不思議ですが、田んぼの水が熱くなりすぎて水路にもどってしまうのだと思われます。真夏になると田んぼの水温は40度近くに上昇しますが、谷戸の水路は真夏でも25度以上になりません。これは“絞り水”と呼ばれる水源が各所にあるからで、この冷たい水源がホタルやホトケドジョウなど谷戸の生きものを支えています。ほとんど水がないような場所でも泥に潜って生き延びることができ、幅20cm、長さ数mほどしかない狭い水路でも生息できるようです。

狭い環境でも生き延びられるということは、わずかな地形の変化に影響を受けやすいということにもつながります。水路の途中に淵や淀み（深い場所）があると多くの稚魚が育つことや、成魚の越冬地として役立つことがわかってきました。山崎の谷戸では、しいし周辺から東谷沖まで、ほぼ全域の水路に分布しており、休耕田跡地のような湿地の環境にも見られます。今後は重要な生息地点をモニタリングしながら見守っていきたいと思います。

## 生態系保全班 ★7/7(土)、21(土) 夜の自然観察 ★30(月)水路の手入れ作業



コシボリヤンマのヤゴ

冬はカエルの産卵のために湿地を手入れしました。今度はホトケドジョウが棲みやすいように、それから、トンボの産卵のために水路の手入れをします。汗をかきながら手入れをした上をオニヤンマが滑空してくる姿が見られるかもしれません。夕暮れ時になると、大船の方から何かが飛んできます。光る虫や不思議な鳴き声の正体と一緒に探ってみましょう。

## 植物育成班 ★7/2(月)野草生育地の手入れ ★9(月)田の植物観察

春に種をまいた野草がかわいらしい芽を出しました。小さな苗が育つように、野草畑の手入れをしました。雑草と野草を見分けながら草取りするのは、なかなか難しい作業です。きれいになった野草畑に、会員の自宅で大切に育ててもらった5cmほどのツルボの苗を移植しました。3本をひと束にしながらか植えるのは結構根気のいる作業です。ほかにもいろいろな野草の苗を育てています。また、今ある野草も、野草が心地よいと感じるように手入れをしていきたいと思っています。





# 谷戸往來

谷戸往來 谷戸往來

## 総会が無事に終了しました

6月3日(日)研修室にて、新たな役員での活動となった1年を振り返り、第4回通常総会が無事に終了しました。日ごろは活動に参加できない遠方の方もいらして、そら豆、落花生、お焼きなどを振舞い、話に花が咲きました。

## 福島の子どもの合宿に臼と杵を提供

5月3日(木)～6日(日)にかけて、“5年後10年後こどもたちが健やかに育つ会 鎌倉”主催の「かまくらあそび合宿」～ふくしまこどもたちプロジェクト～が開催され、福島の子どもの達5名が鎌倉にやって来ました。親元を離れ、ホームステイ先に泊まり、トレッキング・沢登りなどをメインとした遊びの中、「お餅つきをして手づくり柏餅を振舞いたい」との相談を受け、当会の臼と杵を提供しました。お餅つきには子ども達も参加して大変賑わったそうで、「みんな、笑顔いっぱい福島に帰って行きました」と報告がありました。

七月二十二日日曜開催  
山崎の夏まつり  
地元の伝統的なお祭りです。当会からは毎年、神輿の屋根上の鳳 おおとりにくわえさせる稲の提供と、神輿の担ぎ手として参加しています。



## 寄稿 韓日の両生類シンポジウムとNPO交流に参加して

久保廣晃

黄砂で薄曇りの空の下、韓国は猛暑と50年ぶりの大干ばつにあえいでいた。今年3月、日韓両生類シンポジウムで山崎の谷戸を視察した韓国のNPOから招待され、6月21日から4日間、両生類の調査とNPOの交流に参加した。八王子市で両生類保護に取り組んでいるお二人、そして通訳の方には大変お世話になった。初日のシンポジウムで日本自然保護協会と当会の活動について発表。以後、清州市と大田市近郊で、休耕田や夜の田んぼ、山奥の溪流の調査、グリーンコリア(地元NPO)との交流が続いた。夜はアパートに泊めてもらい、食事は大衆食堂かNPOの方々の手作りメニューを味わい、庶民の生活も体験できた。翌日は清州市の南郊にある「ヒキガエル生態園」を視察、2004年以来、国の土地開発公社を相手に交渉を続け、都会の中に自然を残せた成功例だ。ビルの谷間で高齢者の方々が田植えをしている。ここも「ヒキガエル生態園」の一部とか。早速私も参加。田んぼの土は、泥ではなく砂と小石だった。植物は日本と同じだが、松が多く、ササやアオキ、常緑樹、杉、ヒノキは全く無い。年に一度の草刈りで里山の景観が保てる国らしい。韓国の自然保護は社会運動との関わりが密接だ。1990年代の民主化運動の余波で自然保護運動が始まったことから、リーダーは元学生運動の闘士が多く、自治会長、医者、牧師など地域ぐるみで取り組む姿に感銘を受ける。人々は皆情熱的で昭和40年代の日本を思い出す。経済同様、日本の3倍のスピードで自然保護が進んでいる印象を受ける。生物のモニタリングや緑地管理にはまだ手が回らず、日本の助言が必要と感じた。こどもの環境教育も盛んだが、当会のように伝統的な農法を教育や自然保護に取り入れる発想は無い。谷戸の田んぼから発信すべきことがありそうだ。